p. 429-430, 1927 et Bd. VIII, p. 429, 1932. Leipzig.

*　*　*　*

フクレヘラゴケ属の地衣として，*Th. Hookeri*, *Th. hyalinum*, *Th. indicum*, *Th. casuarinarum* の 4 種が現在までに報告されている。しかし，これらの地衣の化学成分については，*Th. casuarinarum* とその亜種 ssp. *nipponicum* で朝比奈が報告したジバリカート酸の産出が知られているだけである。

著者はパリの博物館に保存されている *Th. Hookeri* と *Th. hyalinum* の標本を顕微化学的に調査した結果，両者ともにウスニン酸とジバリカート酸を含むことを知った。これは Thrower から送られてきた多量の *Th. hyalinum* の標本からウスニン酸とジバリカート酸を得た事実とも一致する。*Th. indicum* については調査する機会はなかったが，地衣体は灰色だと云われているのでウスニン酸は含まないものと想像される。

○地衣類思い出話 (1)（富樫　誠） Makoto TOGASHI: Miscellaneous notes on lichens or lichenological survey (1)

高野山へは朝比奈先生のお伴をして前後 3 回行っている。行く度毎に山が明るくなって且つ賑やかになるが採集品は逆に益々貧弱になってしまった。吾々の最も着目したのは奥の院の前の広場に林立する 2 抱へ 3 抱へもする様な杉の巨樹でその根に近い辺には *Glossodium* や *Gymnoderma* がチョクチョク首をもたげて居る。林中でも参詣の人々は次々とやってくるので大ピラに採集はできない。そこでカメラを樹幹の前に装置して写真をとる姿勢を見せ，参詣人の一団が通り過ぎるとコチラの商売を開始し相当の収獲を挙げた。この *Gymnoderma* は最初故沼尻好氏が発見して先生に送られそれを Zahlbruckner がヒマラヤ産の *Gymnoderma coccocarpum* Nyl. と同定したが，吉村君の研究によるとこれは誤りで，日本産のものはヒマラヤ産のと全く種を異にするものゝ由で詳細は近々発表されるとの事。二回目に高野山へ行った時は信心家の後藤実氏が同行し，同氏は前夜中に寺院へ祖先の回向を依頼したので，翌朝三時頃に小坊さんがやってきて回向が始まるから起ろと言われ，後藤氏は早速身仕度して出掛たが先生はと見ると別に起き上られる様子もないので自分も先生の真似をして朝まで寝てしまった。此時先生は鐘堂の横手の芝生地帯でコツコツ仕事をして居られたが，その時の採集品が暫くして *Cladonia koyaensis* Asah. となって発表された。三度目は三宅馨，渡辺武の両氏と先生と自分の一行で，車で大阪を出発し最初の日は橋本の旅亭に一泊し，翌日高野山に詣で引返して再び橋本に宿泊し，翌日北上し上市をへて松山町で森野菜園を参観し，牡丹満開の長谷寺に詣でた後一直線に大阪へ帰った。